

# なぜ、大企業は サーバイを続けるのか？

---

— 中小企業が学べる  
「続ける理由」と「活かし方」 —



©2026 Gerbera Partners. All Rights Reserved.



## 1. 組織サーベイ実施機能とは何か？

3つの価値があります。

1

### 課題の可視化

経験や勘だけに頼らず、  
定量データに基づいて  
組織の現状や潜在課題を  
客観的に把握できる

2

### 変化の定点観測

施策実行後の効果検証や  
組織コンディションの変化  
を時系列でモニタリング  
できる

3

### 対話の共通言語化

経営層と現場が同じ  
データを見ることで、  
組織改善に向けた  
建設的な対話が生まれる

## 2. 大企業が“やって終わり”にしない5つの理由 ①

### 理由1 | 会社の状態は常に動いているから

- ・ 事業再編、新規プロジェクト、上司交代、繁忙期…  
空気や動きやすさは月単位で変わる。
- ・ 一度の調査は「記念写真」。定期的に撮るから“変化”  
が見える。

#### 中小企業が押さえておきたいポイント

中小企業は人数が少ないほど、**小さな変化が職場全体に広がりやすい特徴**があります。  
だから四半期に一度の**“軽い調査”**でも、**変化をつかみやすく**、改善効果が表れやすいのです。

### 理由2 | 問題が表に出る前の予兆を拾えるから

- ・ 「最近、会話が減った」「新任上司への不安が増えた」  
など、爆発の前に出る小さなサインをとらえる。
- ・ 早く気づけば、手遅れを避けられる。

#### 中小企業が押さえておきたいポイント

1人の離脱が致命傷になりやすい。  
“**早めの気づき**”が、採用・育成**コストのムダを防ぐ**。

## 2. 大企業が“やって終わり”にしない5つの理由 ②

### 理由3 | 肌感覚では読み違える場面があるから

- 現場に近いほど「分かっているつもり」になりやすい。
- 実際に聞くと、声の小さい人の困りごとや、意外なズレが出てくる。

#### 中小企業が押さえておきたいポイント

経営者の勘は強力だが、“**確かめる習慣**”を持つことで意思決定の質が上がる。

### 理由4 | 効果を確かめ、より良い会社にするため

- 会議のやり方、1対1の面談、手順書の整備など、効いたかどうかは続けて見ないと分からない。
- 続けて見るから、うまくいった方法を社内標準にできる。

#### 中小企業が押さえておきたいポイント

「試す→確かめる→良ければ定着」が早いのが強み。スモールスタートが効く。

## 2. 大企業が“やって終わり”にしない5つの理由 ③

### 理由5 | リーダー育成の土台になるから

- データを「責めるため」でなく“一緒に学ぶため”に使う。
- 他チームとの良い工夫の共有が進み、リーダーの引き出しが増える。

### 中小企業が押さえておきたいポイント

リーダーの人数が少ない分、**1人の成長が会社全体に波及**する。

サーベイは“通信簿”ではなく“教材”として扱う。

### 【大企業が“やって終わり”にしない5つの理由のまとめ】

大企業がサーベイを継続するのは「制度だから」ではなく、**組織改善のスピードと質を底上げする“経営ツール”**だから。

- 組織の変化がダイレクトに表れやすい
- 予兆への早期対応が経営インパクトを左右する
- 改善→定着のサイクルが速い
- リーダー育成の効果が全社に波及する

小さな会社こそ、軽いサーベイの“継続”が最も効く」

### 3. 大企業が実際にやっている“続けるための工夫”

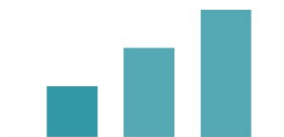
個人の意志に頼らず、仕組み化と組織的なサポート環境を構築することで定着させています。

#### 業務プロセスの標準化



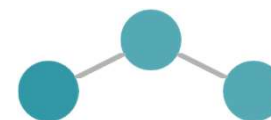
既存の業務フローへの統合やマニュアル整備を行うことで、迷わず実施できる状態を作り、心理的・物理的なハードルを低減しています。

#### 評価制度との連動



取り組み自体を目標管理(MBO)に組み込み、上長からの定期的なフィードバックを実施することで、実行の動機付けを強化します。

#### 相互支援の場づくり



社内勉強会やメンター制度を導入し社員同士がノウハウを共有する環境を整備。孤立を防ぎ、組織全体で継続する文化を醸成します。

## 4. よくある誤解と、正しい考え方

作業量ではなく成果の質を重視し、組織全体での最適化を図ることが重要です

### よくある誤解

- ・作業時間の長さが評価につながる
  - ・全てのタスクに100%の力で取り組む
  - ・一人で抱え込み、完遂を美徳とする
- 「手段」が目的化してしまっている状態

### 正しい考え方

- ・生み出した「成果の質」が評価基準
  - ・重要度を見極め、リソースを集中する
  - ・周囲を巻き込み、組織で成果を出す
- 「目的」から逆算して行動している状態

## 5. 中小企業が“大企業のやり方”から真似すべき3つ

継続を前提に改善点を絞り、全員で結果を共有する運用を定着させることが重要です。

### POINT 01

続ける前提で“軽く回す”

完璧さよりも「継続」を重視し、まずは小さなサイクルで運用を開始することが重要です。

### POINT 02

3つだけ直す

多くの課題があっても一度に全てを変えず、優先度の高い3点に絞って改善を実行します。

### POINT 03

結果は全員で見る  
・叱らない

成果を透明化して全員で共有し、失敗を責めずに次回の改善へ活かす文化を醸成します。

## 6. 実務ガイド: 中小企業でも再現できる進め方

準備・実施・見直しの各フェーズを適切な期間で  
回すことで、着実に成果を創出します。



## 7. 設問設計と基本方針

効果的な設問設計の基準と、得られた結果を  
シンプルに解釈するための基本方針を解説します。

### 設問の柱(選び方)

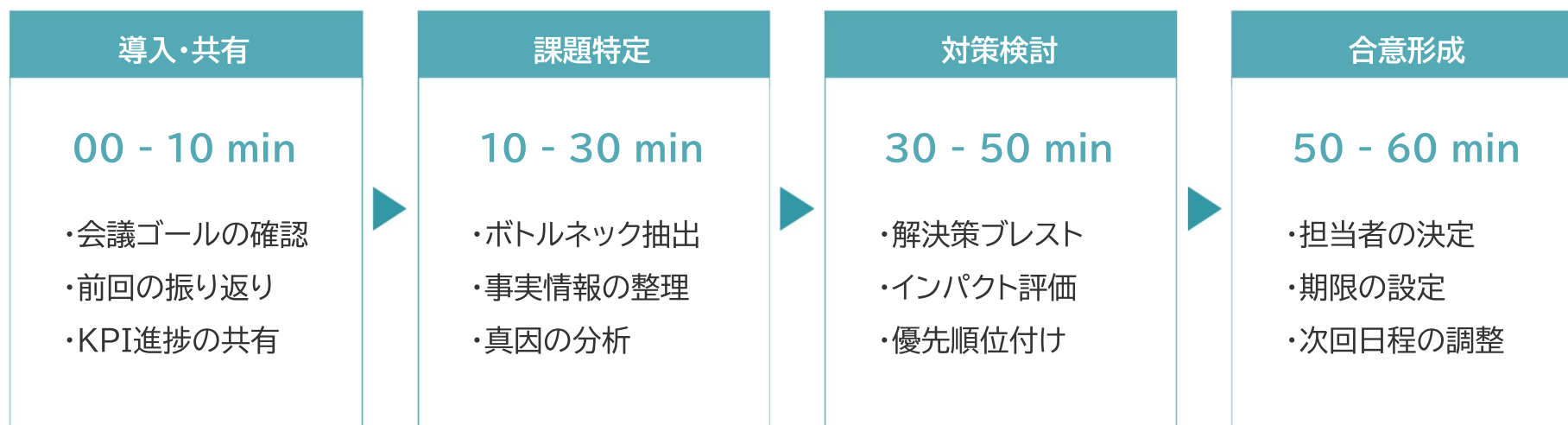
- ・ 調査目的を明確にし、必要な項目のみを厳選
- ・ 回答者の負担を考慮した設問設計を行う
- ・ 分析時の軸となる属性情報を漏れなく収集

### 結果の読み方(シンプル)

- ・ 全体傾向と重要指標(KPI)の相関を確認
- ・ 複雑な分析よりも直感的な可視化を優先
- ・ データから次なるアクションを具体的に導出

## 8. 改善会議（60分アジェンダ）

会議の目的を明確化し、60分間で具体的なアクションプランまで合意するための進行案です。



※各フェーズの時間は目安です。議論の状況に応じて柔軟に調整を行ってください。

## 9. 失敗しがちなポイントと回避策

一般的な失敗要因を早期に特定し、具体的な対策を準備することで、手戻りを防ぎプロジェクトを円滑に進められます。

ゴール設定の曖昧さ

完了定義が不明確で  
手戻りが発生する

定量的なKPI設定

数値目標を設定し  
関係者の認識を統一する

工数見積もりの甘さ

突発タスクにより  
スケジュールが遅延する

バッファ込みの計画

予備日をあらかじめ設け  
リスクを吸収する

情報共有の不足

認識の齟齬が生じ  
成果物の品質が低下する

定例会の実施

進捗と課題を定期的に  
共有し早期解決を図る

## 10. 製造業A社における在庫適正化の成功要因とは

リアルタイム管理システムの導入で、  
在庫回転率の向上と大幅な工数削減を実現しました。

### 導入前の課題:アナログ管理の限界

- ・手書き台帳によるタイムラグの発生
- ・在庫数の不整合による欠品と過剰在庫
- ・月次棚卸に多大な工数を要する

棚卸所要時間: **月30時間**



### 導入後の成果:デジタル化による変革

- ・リアルタイム可視化で機会損失ゼロへ
- ・在庫回転率が大幅に向上

棚卸所要時間:

**10時間**へ短縮

67%削減

## 11. まとめ 大企業がサーバイを続けるのは…

環境変化に対応し、永続的な繁栄を実現するには、  
組織全体で学び、自己変革を続けるサイクルが不可欠です。

### 学習の常態化

市場の変化や最新技術を  
組織全体で常に学び続け、  
新たな知見として蓄積する

### 柔軟な自己変革

獲得した知識を基にして、  
既存の成功体験に固執せず  
事業や構造を進化させる

### 永続的な成長

環境適応力の向上により  
競争優位性を維持し、  
企業の持続的発展を導く

「学習」こそが、大企業が停滞を避け、進化し続けるための**唯一の手段**となるから。

“測るだけ”では終わらせない。  
改善まで伴走するガルベラのサーベイ、まずはご相談ください。

貴社に最適な組織サーベイの設計と改善ステップを専門家がご提案します。

実際には、これらの要素で最適な設計とステップは大きく変わります



業種・規模



組織構造



評価制度



管理職層の成熟度

ワンストップで、最も効果的なアプローチをご提案



ご相談は無料ですので、  
お気軽にお問い合わせください。

無料相談・お問い合わせはこちら ▶



<https://gerbera-survey.jp/contact.html>